

私たちが、広島サッカーを応援します。



広島市中区千田一丁目12-6
TEL/(082)244-1222

広島サッカーニュース

積攻 J1リーグ戦、7月4日再開

2、3節は"リモートマッチ"、7月10日から(予定)制限付きの有観客試合

2月21日に開幕した明治安田生命J1リーグ2020は、1節のみを終え、4か月余り中断していたが、7月4日、再開する。

対戦相手もすべてシーズン当初の日程は白紙となり、感染予防の観点から、まず、近隣クラブとの対戦を優先的に実施、「週末-水曜日-週末」をセットとした日程が多く組まれている。8月末までの、J1リーグ2~13節、ルヴァンカップのグループステージ2、3節の、対戦相手、期日、キックオフ、会場が発表されている。(9、10月開催分は8月初旬、11、12月開催分は10月初旬に発表予定)

サンフレッチェ広島の再開初戦は、4日のアウェイの神戸戦、ホーム初戦は8日の大分戦となっている。

「シーズン終了後の「昇格あり」降格なし」(3月、4月に発表済)、「選手交代枠を5名に拡大(交代回数はハーフタイムを除き3回まで)」「今シーズンはVARは導入しない」なども発表されている。

2、3節は"リモートマッチ"(無観客試合)。7月10日から"超厳戒態勢時"として、観客数の上限を「5000人または会場収容人数の50%の少ない方」(J1のスタジアムでは、実質5000人。ビジター席の設置はなし)、8月1日からは"厳戒態勢時"として、上限を「会場収容人数の50%(席種単位)」に緩和される。チケット販売は1試合ごとの販売となる。詳細は、サンフレッチェ広島のHPなどから確認して欲しい。また、今後、感染状況により、変更になる可能性もある。

YBCルヴァンカップの大会方式の変更も発表されている。グループステージはホーム&アウェイから1回戦総当たりのリーグ戦に変更、プレーオフステージを廃止、プライムステージも準々決勝から決勝まで、ホーム&アウェイからすべて1試合制のトーナメント戦へと変更された。

J1リーグ、ルヴァンカップとも、好スタートを切ったサンフレッチェ広島。エディオンスタジアム広島での観戦、応援が思うに任せないもどかしさはあるが、それぞれのみなさんが応援可能な場所で、声援を送っていただくことを願いたい。

サンフレッチェ広島 試合日程

節	月	日	曜	キックオフ	対戦カード	会場
J:2	7	4	土	18:00	神戸	ノエスタ
J:3		8	水	18:00	大分	Eスタ
J:4		12	日	18:00	鳥栖	Eスタ
J:5		18	土	18:00	C大阪	Eスタ
J:6		22	水	18:00	G大阪	パナスタ
J:7		26	日	18:00	名古屋	Eスタ
J:8	8	1	土	18:00	横浜FC	ニッパツ
C②		5	水	18:00	札幌	札幌厚別
J:9		9	日	18:00	湘南	Eスタ
C③		12	水	18:00	鳥栖	Eスタ
J:10		15	土	18:00	浦和	埼玉
J:11		19	水	18:00	F.C東京	Eスタ
J:12		23	日	18:00	横浜F・M	日産スタ
J:13		29	土	18:00	仙台	Eスタ

J: 2020明治安田生命J1リーグ
C: 2020YBCルヴァンカップ グループステージ

『広島サッカーニュース』500号

1978年(昭和53年)11月~(平成元年~31年)~2020年(令和2年)6月

1978年(昭和53年)11月号、手書きの『広島サッカーニュース』創刊号が発刊された。"サッカーどころ、広島"の復活を願って、その一助にと、寺地 作、倉岡誠親、柳原英児ら、広島サッカーの全盛期を知る人々の手によるものであった。翌12月号からは活字印刷となった。15年間近く、寺地、倉岡が中心となつての取材・執筆・編集が続いた。その間、発送作業等は、倉岡が監督、部長を務める安古市、広島国泰寺高校のサッカー部員が担ってきた。

175号からは、各種別などからの情報を基に、吉池文夫(全般)、白岩博明(原稿、編集担当)、大橋剛夫(写真担当)により、発行をつづけた。その後は、白岩に代わり日上雅義・公子夫妻(編集)、大橋に代わり坂谷直亮(写真)等に引き継がれた。発送作業等は、吉池が監督、部長を務める広島井口、高陽、廿日市西高校のサッカー部マネージャー、NPOちゃんくす(三原市)と引き継がれ、25年間余りにわたって発行をつづけてきた。

紙面の大きさも、2号からつづいたタブロイド判(変型)に替わって、361号(2008年11月号)からはA4判4~6ページに衣替える。活字を組んでの製版・印刷は、パソコン上での編集やオフセット印刷に替わる。

コラム欄についても触れておかなければならない。それまでも、技術、審判、チーム指導、スポーツ医学など、不定期ではあったが、「広島のサッカーを考える」投稿や編集の方から原稿をお願いして掲載してきた。194号(1994年12月号)からは、「一歩離れた立場から見た広島のサッカーへの思い」の執筆を、スポーツジャーナリストの早川文司氏にお願いし、468号(2017年10月号)まで、《蹴求》と題したコラムを毎月欠かさずご提供いただいた。275回を重ねている。(2017年12月ご逝去)

その後、1年余り後、483号(2019年1月号)からは、田辺一球氏が「早川さんの意思も継いで」と《新蹴求》と題したコラムを執筆していただいている。

(念のため付け加えるが、原稿料は全く払ってはいない。ただただ、広島のサッカーへの思いにおすがりしている。)

その間、広島県サッカー協会は1990年7月に財団法人化し、2012年4月には公益財団法人広島県サッカー協会へと変わった。1990年代半ばまでは、毎年のように、広島で国際試合が行われた。この40年間で、日本サッカー界最大の行事は、FIFAワールドカップ2002日本・韓国であろうか。広島もワールドカップの開催地を目指し、ハード面の充実を各所に要望するとともに、ソフト面の経験を積み重ねてきた。1992年のアジアカップ広島、1993年のU-17世界大会、1994年のアジア競技大会、1996年の国民体育大会…。しかし、広島は、ワールドカップ2002から見放された。そしてようやく、新サッカースタジアム建設への歩みが始まってきた。

Jリーグ発足時には、広島をホームタウンとするチームはなくなるのではないかと危惧感もあった。しかし、その都度、広島のサッカーを愛する人々に支えられ、広島のサッカーは生き延びてきた。Jリーグ発足2季目の1994年には、サンフレッチェ広島が、Jリーグのステージ優勝を飾る。その後、2度のJ2落ちを経験したが、その都度、1シーズンでJ1復帰を果たす。そして、2012、2013、2015年、森保一監督の下、J1優勝を飾る。

この40年間余りの広島のサッカーを振り返って2、3面の見開きに、特筆すべき記事が紙面のトップを飾っている『広島サッカーニュース』を特集として掲載している。過去を振り返り、懐かしむと共に、『広島サッカーの復活』と『新しい広島のサッカーの創造』のための一助にして欲しいと願っている。

(文中敬称略、一部は除く)
(公財)広島県サッカー協会 広報委員長 吉池文夫



女子プロサッカーリーグ 『WEリーグ』、2021年秋開幕

日本サッカー協会は6月3日、2021年秋に開幕する日本初の女子プロサッカーリーグの名称やロゴ、大会方式等を発表した。

新リーグの名称は、「WEリーグ(Women Empowerment League)」。日本女子サッカーリーグ(なでしこリーグ)の上位に位置付け、6~10チーム(予定)で発足する。広島からのチームも"オリジナルO?"に入ることを期待したい。

速報 FIFA女子ワールドカップ2023 日本招致活動から撤退

オーストラリア/ニュージーランドで開催決定

(公財)日本サッカー協会は6月22日、開催国として立候補している2023年のFIFA女子ワールドカップの招致から撤退することを発表した。

25日にはFIFAカOUNCILが開かれ、オーストラリア/ニュージーランドが開催国に決まった。女子ワールドカップの南半球での開催は初めて。なでしこジャパンの活躍に期待したい。

7月号

広島サッカーニュース

2002 FIFAワールドカップ開幕
「ブラジル対日本」日本も熱狂

第285号 2002年(平成14年)7月

10月号

広島サッカーニュース

「NEW!! わかばい国体」
少年男子 初優勝

「がんばれ!! サンフレッチェ」
「J1 復帰ロード」再スタート!

第300号 2003年(平成15年)10月

日本、女子もアテネへ

NIKE PREMIER CUP JAPAN 2004

サンフレッチェ広島ジュニアユース 快く優勝

第307号 2004年(平成16年)5月

《いざい兵衛国体》へ、少年男子
～団体戦初優勝～

第334号 2006年(平成18年)8月

1月号

広島サッカーニュース

広島皆実 堂々の初優勝

第363号 2009年(平成21年)1月

1月号

広島サッカーニュース

広島ユース 方式の高円宮杯 U-18 を制す

第399号 2012年(平成24年)1月

2月号

広島サッカーニュース

「広島サッカーニュース」100号 301～400号を振り返って

第400号 2012年(平成24年)2月

3月号(追加) 広島ユースが優勝

第402号 2012年(平成24年)4月

FIFA U-20 女子ワールドカップ日本 2012

第407号 2012年(平成24年)9月

サンフレッチェ広島 優勝

第410号 2012年(平成24年)12月

2014年(平成26年)1月

第423号

ワールドカップ BRAZIL

第429号 2014年(平成26年)7月

2015年(平成27年)12月

第446号

2016年(平成28年)1月

第447号

2016年(平成28年)7月

第453号

2016年(平成28年)10月

第456号

2018年(平成30年)9月

第479号

2019年(平成31年)2月

第484号

2019年(令和元年)11月

第493号

サッカー活動の再開に向けて

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大のリスクを排除しながら、サッカーの活動が再開されつつあります。有効な防止策や治療方法がまだ確立されておらず、人々の健康を守る方法は、現在のところ、できるだけ接触を回避するなど、一人一人が感染拡大防止のためにできることを続ける必要があります。

6月12日に(公財)日本サッカー協会から、詳細な「JFAサッカー活動の再開に向けたガイドラインの策定について(第2版)」、「JFAサッカー活動の再開に向けたガイドライン(第2版)」が出され、合わせて「各種チェックリスト」も展開されました。広島県協会のホームページからも見ることができますので、ご確認の上、チームの活動や、大会等の運営にご活用いただくように、お願いします。

Sports assist you
～いま、スポーツにできること～



JFA
サッカーファミリー
支援窓口

GOALS beyond COVID-19
この危機を、ともに乗り越えろ

中止、延期となっている大会、リーグ戦

引きつづいて、大会やリーグ戦等の中止や延期、開幕延期が発表されている。全国大会の中止に伴い、その中国地域予選や広島県予選も、多くが中止になっている。別途、個別に発表があったものを、掲載する。

全国リーグ、全国大会の延期、中止

- 第75回国民体育大会 かがしま国体 延期 → 開催日未定
- 第20回全国障害者スポーツ大会 延期 → 開催日未定
- 高円宮杯 JFA U-18プレミアリーグ2020、同 ファイナル、同 プレーオフ 中止
- 各地域のプリンスリーグとの合同リーグ(8月下旬～12月下旬)として開催
- Jユースカップ Jリーグユースサッカー選手権大会 中止
- 第35回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会(8/15～24 北海道) → 中止
- 2020プレナスチャレンジリーグ 開幕延期 → 8/22開幕
- JFA 第19回全日本0-50サッカー大会 (6/27～29 静岡市) → 12/19～21開催

中国地域リーグの中止、代替大会の開催

- 第48回中国サッカーリーグ(3/28～9/27) → 中止、代替大会開催(予定)
- 【CSL最強カップ戦(仮称)】 大会要項、日時、会場等は検討中

広島県大会の中止

- 第16回全日本大学フットサル広島県大会 (8/28～30) → 中止
- JFA 第7回全日本U-18フットサル選手権広島県大会 → 中止
- JFA パーモントカップ第30回全日本U-12フットサル選手権広島県大会 → 中止

《新“蹴求”》〈U-18〉“ひろしま”の力を合わせて!! ～『広島サッカーニュース』500号に思いを込めて～

2カ月続けて“拡大コラム”となり、またいつもの形に戻った。コロナ禍を乗り越え、世の中は通常時に戻りつつある。次に“拡大版”になる時は「広島サッカーニュース」第600号!今回は区切りの500号だ。紙媒体のこうした月刊広報メディアは隣県でも見られない。500回の積み重ね、12で割ると40年以上続いたことになる。第1号は昭和53年11月。古葉カーブが初の日本一になる前の年だ! そのプロ野球に続いてJリーグも

リモートマッチ、イコール無観客試合で7月スタート!ピッチ上では過密日程との戦いが始まり、ピッチ外ではクラブ存亡を懸けた戦いになる。各クラブとも知恵を絞って入場料収入や物販収入に代わる収入源を模索。地域性なども加味されて様々な新商品が売り出された。だが、それらが即、通常のホームゲーム開催分の収入を補うことにはならない。こればかりはやってみないと分からないが、J1の18クラブでも苦戦するだろう。

サンフレッチェ広島は、公式戦再開を前に年間指定席やシーズンパスの払戻しを発表した。コロナの影響で通常のサービスを行うことが難しいと判断したからだ。毎年の安定収入がなくなった。このためクラブ側から発表された払い戻しのリリースには、次のような案内が添えられていた。「新型コロナウイルスによる無観客試合や入場制限試合の続行は、当クラブとしても、これまで経験したことのない大幅な赤字経営を余儀なくされ、クラブの存亡をご心配して下さる皆さまからは、『指定席の払戻しを辞退して、クラブに寄付したい』と

のありがたいお声も多数頂戴しています。そのため、払戻し辞退のお申し出も同時に受け付けさせていただきます」 Jリーグの歴史とともに歩んできたサンフレッチェ広島はこれまで幾多の危機を乗り越えてきた。しかし今度の敵はウイルスで、広島経済もガタガタに…。 「ひろしまの力をあわせてSave HIROSHIMA」、サンフレッチェ広島が掲げるこのキャッチコピーに込められた思いを、『広島サッカーニュース』500号に記しておく。(田辺一球)

	<p>住友ゴムグループ スポーツ用ロングバйл人工芝</p> 	
		

<p>全国高等学校総合体育大会公式試合球</p>  <p>F5P5000 アセンテックペレダ</p> <p>www.molten.co.jp</p> <p>全国社会人サッカー連盟主催大会唯一の公式試合球 国民体育大会公式試合球 全国中学生体育大会公式試合球</p>  <p>F5V5000 アセンテックヴァンタジッオ</p> <p>For the real game molten</p>	  <p>MORE AGGRESSIVE</p>
--	---